



# 上向台小だより

1月号

西東京市立上向台小学校

令和6年1月9日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>



## 新しい年のスタート! 夢や目標の実現に向けて 校長 酒見 裕子

年頭の御挨拶に代えて、令和6年能登半島地震により被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

さて、終業式に子どもたちには、年末年始には様々な日本の伝統的な行事や文化にふれる機会が多くあるため、ぜひその由来や意味などを知ることができるといいですねという話をしました。

お正月といえば、おせちやお雑煮、お年玉など様々ありますが……私にとっては、1月2日、3日に開催された東京箱根間往復大学駅伝競走、いわゆる「箱根駅伝」です。

箱根駅伝には何か不思議な魅力があります。多くの努力を積み重ねて当日を迎えた選手たち、選手を信じて鼓舞する監督、箱根を走ることを夢見て4年間頑張ってきたけれど残念ながら出場が叶わなかった選手、給水係として選手をサポートした仲間たち、見守る御家族……箱根駅伝に携わる全ての方からたくさんの感動と勇気をいただき、改めて箱根にしかないドラマがあることを感じます。

特に、2年ぶりに総合優勝を果たした青山学院大学の原晋監督は、今大会のスローガンに「負けてたまるか! 大作戦」と銘打って臨み、その思いを選手たちが見事に体現しました。昨年11月下旬から12月上旬にかけて、チームでインフルエンザに集団感染するトラブルがあったそうですが、箱根路に向けた抜群の調整力で総合優勝、さらに大会新記録を打ち出しました。

その原監督は、著書「フツの会社員だった僕が、青山学院大学を箱根駅伝優勝に導いた47の言葉」で次のような趣旨のことを述べられています。

【「考えることが楽しい」と思える人をつくれ】  
～週3日は、自分で考えた練習メニューをこなす～

青山学院大学陸上競技部の1週間を見ると、1日は完全オフ、6日間の練習日のうち3日間は監督が練習内容を決め、残りの3日間は選手自らが練習内容を決めます。特に、差がつくのは自分で考えた練習メニューだそうです。

選手は、目標も練習内容も、自ら考え行動することによって成長しているのです。

ビジネスの現場でも、楽しそうに仕事をしている人たちは、誰に指示されるわけでもなく、自分で考えて仕事をしています。自ら考え、コミュニケーションができる部員を育てる。これは大学生活よりもずっと長い社会人生活で成功するためにも必要だと、原監督は考えているのです。

このような考え方は、本校で実践している「子ども自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業(学習のめあてや学習計画、学習方法を自己決定・自己選択する学び)」と通じると感じています。

【「目標管理ミーティング」で成長を促せ】  
～ビジネスの現場から持ち込んだ目標達成のノウハウ～

青山学院大学の選手は楽しそうに走っている姿が印象的です。従来の駅伝選手のストイックなイメージを一新したとも感じます。原監督は、陸上選手の特性について、これまで「黙々と走れ」という指導を受けており、辛抱強く一つのことをやるのには向いているが、横のつながりを築いて、他人とコミュニケーションを図っていくのが上手ではないと捉えています。そこで、このような部分を補うためのチームづくりと指導を続けているそうです。

その一つが「目標管理ミーティング」です。選手は、例えば「〇〇大会で〇秒記録を伸ばす」というように「個人目標」を設定しています。他人から言われた目標に対しては、選手の意識が希薄になりがちで、実効性が伴わないことが多いため、各選手に個人目標を立てさせた上で、レギュラーの選手だけでなく、控え選手、故障者なども交えたグループでそれぞれの目標について話し合い、他者の客観的な評価を受けることで達成可能な目標に仕上げているそうです。選手一人一人がこうした「目標管理」によって個のスキルを上げる努力をし、結果として組織のレベルが上がり、「チーム目標」が達成できる。そのような好循環が実現しているそうです。

そして、監督の仕事は、「管理することではなく、感じる」とも述べています。上意下達ではなく、選手自ら課題に向き合い、考えて練習し、前進する。それがレースでの走りにつながっていると感じました。

このような考え方は、「キャリア・パスポート」等でのめあてを考えたり、振り返ったりする子どもたちの姿や、子ども一人一人の成長や変容を丁寧に見取ったり、子どもの主体的な学びに寄り添いながら伴走したりする本校の教師の姿と重なります。

2学期末には「キャリア・パスポート」を御家庭に持ち帰らせました。この「キャリア・パスポート」は、小学校から高等学校までを通じて、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながる目的があります。大切なことは「キャリア・パスポート」の活用にあたって、教師や保護者が対話的に関わり、一人一人の目標修正などの改善を支援することです。

新しい年を迎えた1月はこれからの自分を考える良い機会です。子どもたちには、なりたい自分や夢を想像し、そこに向かうことを楽しみに目標を掲げてほしいと思います。学び続ける私たち大人も、子どもたちに負けず目標をもち、前向きに生活する姿を見せ、共に成長しそれを喜び合うことができれば素敵です。

3学期も「一人一人の子どもを主語」にする学校を目指して、教育活動を進めてまいります。御理解・御協力のもと、どうぞよろしくお願いいたします。